



せとまちだより

SETOMACHI-COMMUNITY NO15

令和3年2月24日(水)
瀬戸地域まちづくり協議会
香岐市芦辺町箱崎大左触924
080-8574-5853
発行責任者 前田 清信

手洗い・マスクをわすれずに！三密を避けましょう！！

中瀬臨港道路の補強工事が始まりました。看板によると3月29日迄となっています。
車の通りぬけはできませんのでご注意下さい！
長谷川重家車庫横～元下條造船所間が工事中です。現在、通行止めになっています。



歩道を歩いて通れます。

香岐も数年ぶりの積雪



1月8日(金) 夜明け前から降り出した雪は、わずかな時間で積もりました。久しぶりの雪に雪だるまを作った子どもも多かったようです。

※写真の中には、大人が作った雪だるまもあります。

雪だるまと記念写真



SDGsを知っていますか？

最近、SDGsという言葉をよく聞きます。2018年に香岐市が、SDGs未来都市・自治体モデル事業に選定されたことはご承知だともいますが、SDGsとは…？ 瀬戸地域の皆さん一緒に考えてみませんか。

SDGsとは「持続可能な開発目標」= 誰も取り残さない！

2015年9月、ニューヨークの国連総会で、世界の193の国々が全会一致で合意した『持続可能な開発目標（以下、SDGs）』この合意により、貧困を終わらせ、すべての人が平等な機会を与えられ、地球環境を壊さずに、より良い生活を送ることができる世界を目指して、世界中が努力することが約束されました。SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略称で、17の目標、169のターゲットから構成されています。SDGsの基本理念に「誰一人取り残さない」を掲げ、経済・社会・環境のバランスを重視しながら、国際社会が一体となってSDGsの達成を目指しています。

それでは、17の目標を取りあげてみます。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 貧困をなくそう | 2 飢餓をゼロに |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 4 質の高い教育をみんなに |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 6 安全な水とトイレを世界中に |
| 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに | 8 働きがいも経済成長も |
| 9 産業と技術革新の基盤を作ろう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 11 住み続けられるまちづくりを | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 13 気候変動に具体的な対策を | 14 海の豊かさを守ろう |
| 15 陸の豊かさを守ろう | 16 平和と公平をすべての人に |
| 17 パートナーシップで目標を達成しよう | |



これらの17の目標には、それぞれロゴがあります。

(香岐市ホームページより一部引用)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



私たちが、意識をしないでもSDGsは身近にあります。たとえば、14海の豊かさを守ろうは、漁で生計をたてている瀬戸の漁師にとっては切実な問題です。温暖化のこともあります。まずは、ゴミの海中投棄などで海を汚したりしないこと。そして、それを次世代へ伝えていくことも私たちにできるSDGsです。



瀬戸幼稚園の園児に退治された鬼は箱崎事務所へ逃げてきましたが、その後どこかへ行きました。

今年の節分は2月2日でした

例年、2月3日が節分だと思っていたら、節分は、固定でなく「立春の前日」というきまりがあるそうで、節分が、2月2日になるのは、124年（明治30年）ぶりのことらしいです。3日でなくなるのは昭和59年の2月4日以来37年ぶりだそうです。

国立天文台は、毎年2月の最初の官報で翌年の歴要項（れきようこう）を発表します。暦により天体の運行を推算して暦象年表の発行や歴要項の発表を行っているそうです。

※ ネットニュース参考

火の用心

昔「マッチ一本火事のもと」と言っ
て、拍子木たたい町内回っていました。

最近、火事の放送が頻繁に聞こえて
きます。マッチでなくライター使用が
多くなりましたが、コンロや仏壇の
ロウソクなど火の消し忘れがないよ
う注意しましょう。



ここは
どこ？

昭和63年ころ 瀬戸幼稚園園児による消防 防火パレードの様子です

とっしゃんのひといごつ

2月9日に壱岐高校2年生による「
総合的な探求の時間」の成果発表会が
実施されました。内容は、33班に分
かれて取り組まれた壱岐市のSDGs
に関わる課題の発見とその改善策を探
る探求活動の成果発表でした。

高校生の視点で壱岐の問題点を取り
上げて解決策を探ろうとしていて、と
ても新鮮味がありました。その中に、
壱岐高校「令和壱州おけさ」があり、
動画を見ました。（SDGs目標3）

曲は、従来の壱州おけさを基に一部
アップテンポでダンスを組み入れたり
壱岐高生がいろんな場所で踊る動画で
した。壱岐ビジョンで放送されるかも
知れません。一緒に踊ってみませんか。



昔は、「はしけ」で本船まで人や荷物を運んだそうですが、
昭和38年 浮き棧橋完成により、直接、本船に乗れるよ
うになりました。 ※ 写真の船は対州丸か？

写真提供 先の川・住田さん

百合若と魚釣山 「ふるさとめぐり」箱崎小学校 掲載 昭和60年（箱崎のむかし話より）

むかし、むかし、まだ壱岐の島をカイマン国といっていたころ、島にはたくさんのオニがいて、人びとを苦しめていま
した。

ある年のこと、豊後の国のとのさまが、オニのうわさをきいて、「カイマン国へ行き、ことごとくオニをたいじせよ！」
と百合若に、命じました。百合若は、さっそくけらいをひきいて、オニたいじにむかいました。

やがて、壱岐では、オニたちとのげしい戦いがはじまりました。さすがに、オニたちの力はたいしたもの、百合若
たちを相手に、一歩もひきません。ようやく、オニどもをたいじしてしまったときは、みんなつかれて、ぐったりと休み
ました。

ところが、思わぬことがおこりました。百合若が、安心してねむりこんでいるうちに、別府兄弟はけらいたちを集め
ました。そして、大将百合若様が戦死をされたとうそをつき、みんなをつれて、引き上げました。

「百合若さまは、カイマン国で戦死され、私どもが、鬼をすべてたいじしました。」と
とのさまには、うその報告をして、たくさんのほうびをもらいました。

いっぽう、目をさました百合若は、けらいも、船もないので、おどろいて、大声でよんで
みました。しかし、こたえる声はなく、ただチドリの声だけが、さびしくきこえてくるばかりです。

はなれ島にただ一人、こまりはてた百合若は、がっかりとしゃがみこんでしまいました。
すると、どこからか、かた目の小オニがあらわれました。

小オニは、すぐに海にいった魚や貝を、山にいった木の実を、せつせととってきて、百合若に
すすめてくれました。夜になると、どうくつにあんないしてくれました。

小オニがしんせつに世話をしてくれたおかげで、百合若は1年ちかくも、どうにか元気にくらすことが
できました。このとき、百合若と小オニが生活したところは、今の勝本町の串山だといわれています。

ある日のこと、百合若が山にのぼり、沖の方をながめていると、はるか遠くに、1艘の漁船を見つけました。

「これは神さまのおたすけだ。」と、たいへんよろこんで、山を駆けおりました。小オニには、心からお礼をいい、別れの
あいさつをしました。

百合若は、大声をあげながら、およぎました。漁船にちかづく、漁師は、ヒゲぼうぼうの百合若をみて、おどろき、
ろをふりあげてたたきました。百合若は、自分はいやしい者でない、なぜこの島にいたのか、身の上について話をして、
船にのせてくれるようにたのみました。

「もし、私を船にのせてくれたら、よい漁場をおしえてあげよう。」漁師はまだうたがっているようでしたが、百合若を
ナワでしばることで、やっとのせてくれました。

漁師が、百合若におしえられたところについて、アミを入れると、たちまち大漁になりました。

よろこんだ漁師は、このちかくの山を「魚釣山」と名づけて、目しるしとして、ここをだいじな漁場としました。

やがて、大風がふきだし、海は大じけとなって、船は今にもはずみそうです。海になれている漁師も、まったく生きた
心地はしません。

すると、「私をしばっているナワをゆるめれば、あらはしはずまるだろう」と百合若がいいました。

漁師は、ふしぎに思いながら、ナワをゆるめると、風は少しおさまりました。もう少しゆるめると、もっと静かになりまし
た。とうとう、全部ナワをといってしまうと、おだやかな天気になりました。

漁師はたいへんよろこんで、百合若を九州のみなとまで、おくりとどけました。漁師とわかれた百合若は、やがてぶじ
に自分の国にかえることができました。

しかし、家にかえてみると、はなれ島の長いくらしで、ぼうぼうとしたかみやひげ、まっ黒いかお、だれも百合若を信
じてくれる人はいません。

このとき、お母さんが「もし、この人がまことの百合若であるならば、右のあごに犬歯が2本はえているはずです。」
というのです。みんなが、口の中をみると、2本の犬歯があったので、ようやく信じてもらえました。

まもなく、別府兄弟たちはとらえられて、ばつをうけました。

壱岐の島の人びとは、オニたいじしてくれた百合若への感謝のきもちと、2どとオニがこないようにとのねがいをこ
めて、オンダコを作りました。

これには、上にオニのかおが、下にはかぶとをつけた百合若が書いてあります。

今でも、桃の節句には、おとなも子どもも、オンダコをあげます。

※ 「ふるさとめぐり」は、昭和60年度箱崎小学校(当時の校長は中上史行氏)で編集・発行された冊子です。
この冊子の完成には、当時の高学年や、家族、地域の皆さんの協力があったそうです。
この物語は、記述に忠実に掲載しました。
魚釣山は、男岳のことです。 ※ 百合若の話は、諸説あります。

